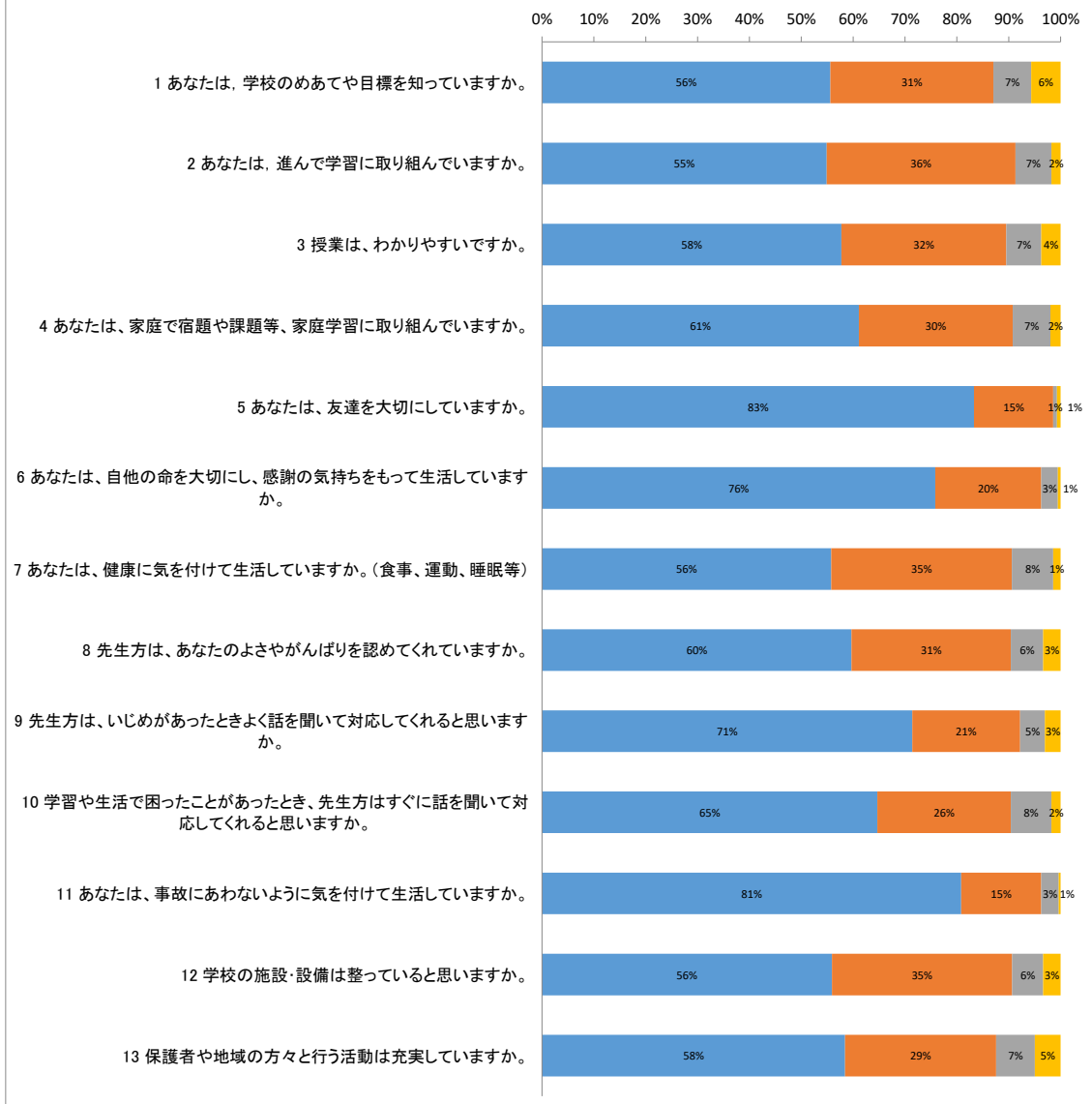


【児童対象】教育活動についてのアンケート集計結果



【考察】

特に評価が高かったのは、Q5「友達への思いやり」98% (±0pp)、Q6「自他への感謝」96% (-1pp)、Q11「安全と事故防止」96% (+0pp)に関する項目となっており、友達を大切にしている児童、友達や自分に感謝し命を大切にしている児童、安全への意識や善悪の判断ができる児童が多いことがわかります。学校では、年間指導計画に基づく道徳の学習や人権教育に力を入れています。人権週間に合わせて、友達のよいところを見つけて皆に知らせる「いいねの木」、児童会活動として行う「ふわふわレター」等で、友達を大切にすることや他者を尊重する心を育てよう日頃より努めています。子供たちの安全に対する意識については、定期的に行う様々な状況を想定した避難訓練、保護者や地域の方のご協力による交通安全指導によって高まっていると考えられます。また、Q2「進んで学習に取り組んでいる」Q8「がんばりを認めてくれている」の項目においても、90%を超える高い評価となりました。子供たちは「できるようになりたい」「わかるようになりたい」という意欲をもって学習に取り組んでいたことがわかります。その姿が現れていたからこそ、学校は子供のがんばりを褒めることができました。子供の努力を見逃さずに認めてきた結果、これらの項目が関連し合っ高い評価につながったと考えることができます。今後も子供たちが努力していることを認め、褒めていけるようにしていきます。

Q1「学校のめあてや目標の理解」87% (-5pp)、Q3「授業がわかりやすいか」90% (-5pp)、Q10「学習や生活で困ったことがあったときの学校の対応」91% (-5pp)については、比較的高い肯定的回答率ではありながらも、昨年度と比べ減少する結果となりました。「学校のめあてや目標の理解」については、全校朝会やホームページでの校長発信だけでなく、学級担任からも子供たちに伝えられようになっています。子供の「わかりやすい授業」の回答は、教師の「わかりやすい授業に努め、工夫をしている」、保護者の「子供が授業がわかりやすいと思っている」という回答と反していました。子供は授業中はわかっているが、テストの点等に結果が現れないと、「勉強がわからない、授業がわからない」としているのかもしれない。授業で学んだことを定着させ、子供が「わかった、できた」の実感を持續できるように、さらに授業力向上に努めてまいります。また、学習での悩みを含め、困りごとに対する学校の対応について、子供たちが相談しやすい環境でないと感じていることは反省すべき点と考えております。教職員は、子供が相談できる相手として、保護者、地域の方とともにありたいと思っております。1年に5回行う生活アンケート、通年ある相談箱やWEB相談で、子供の困り感に、できるだけ早く気付けるよう取り組んでいるところではありますが、まずは、対面で一人一人の子供たちに目を向け、耳を傾けていく姿勢を続けていきたいと思っております。

今年度もご家庭や地域からの励ましを受けながら、学校としてできることを一つ一つ丁寧に取り組んでまいりました。課題とすべき点については、教職員で考え、子供たちが楽しく充実感を持って過ごせるように、そして、明日の登校が楽しみになるように努力していきます。

※ (前年度比 [pp : パーセントポイント])